

学園テーマ「東海医療学園のブランド力を高めよう」

重点目標

1. 魅力ある学校づくりの推進
2. 地域に愛される学園の確立
3. 学園運営基盤の強化

重点目標	具体的な方策	実施状況	課題と改善の方向
<p>1. 魅力ある学校づくりの推進</p> <p>1) 教育力向上</p>	<p>教育力向上のための研修、授業研究等の実施。東洋療法学校協会等が開催する研修会、教育関連学会、医学、スポーツ等関連学会への積極的な参加により、教育力・指導力を高める。</p> <p>授業の改善、向上をはかるために学生による授業評価、ミニツツペーパーなどによる自己点検評価を実施し、授業の改善向上を積極的に努める。</p>	<p>4 月、講師会議並びに教員研修会を実施。校長より「2010 年度重点目標」と、目標達成に向けた具体的取り組みが示された。元熱海後楽園社長、岡武秀氏より「プロの条件」と題し、教育のプロとして心がけねばならない態度や行動について助言を頂く。</p> <p>6 月、第 59 回全日本鍼灸学会が大阪で開催され、本校から校長はじめ専任教員、講師が参加した。本校からは村松夏子先生が「燃烧温度曲線を活用した灸実技練習法」について発表した。</p> <p>8 月、東洋療法学校協会第 34 回教員研修会が大阪で開催され、専任教員が参加した。</p> <p>11 月、日本鍼灸手技療法教育研究会第 7 回学術大会が東京で開催され、専任教員が参加した。</p> <p>その他、個々の教員が、医学・教育・スポーツ関連の学会・研修会に自主的に参加し、研鑽を積んだ。</p> <p>学生による授業評価等自己点検を実施、実施率は 100%であった。</p>	<p>授業の学生評価等自己点検の結果を踏まえて、また、互見授業や校長による授業参観を実施して、積極的な授業の改善に取り組むよう努める。</p> <p>学生が前向きに学習に取り組めるような授業方法の研究、指導力向上を図るための FD に取り組む。</p> <p>「教育マニュアル」の内容を見直しつつ、各教員が内容を把握し参考として活用するよう徹底を図る。</p> <p>実技実習の指導内容について継続して検討が必要であり、これに伴いカリキュラムの見直しを行う。</p> <p>効果的・効率的な教育を実施するため、教材や教育機材の導入を推進する。</p>

<p>2) 学校行事・課外活動等の充実</p>	<p>学習意欲を高め、学生相互の親睦を図るため、校外実習や学園祭などの学校行事を推進する。</p> <p>東洋療法学校協会等が開催する学会等に参加する。</p> <p>ゼミを開講し、グループ学習やフィールドワークを通じて学習を深める。</p>	<p>4月、新入生を対象にプレ学習を実施し、特に専門科目の学習のしかた等について指導を行った。</p> <p>5月、校外実習として、1年生は江ノ島杉山校校墓参、2年生は鶴見大学解剖見学実習、3年生はセイリン工場の見学を行った。</p> <p>6月および11月、「ようこそ先輩！」(東海医療学園版)第1回、第2回を開催、社会で活躍する本校OBを招き、後輩に対して経験談や仕事に対する姿勢等について語ってもらった。</p> <p>7月、本校校友会総会並びに研修会が開催され、学生ならびに卒業生が参加して交流を図った。講師に原オサム先生を招き、「積聚治療」について講演を頂く。</p> <p>10月、東洋療法学校協会第32回学術大会が東京で開催され、全学生および専任教員が参加した。本校学生から「肩こり感と筋緊張との関係について～ストレスの影響と鍼刺激法の検討」と題した発表があった。</p> <p>10月、学園祭を開催。チャリティマッサージ、模擬店、バザー等を催し、市民との交流を深めた。同月、球技大会を開催し、フットサル、バスケットボール、バレーボール、バドミントン等のスポーツを楽しみながら学生相互、教員との親睦を深めた。</p> <p>年間を通じて、「地域医療」「漢方」「経絡治療」「積聚治療」などのゼミを開講し、専門的知識・技術の研究を行った。</p>	<p>これまでは本校入学までの期間に課題を送付、自己学習による準備教育を実施してきたが、本年度はこれに加え「プレ学習」を実施、準備教育の充実に努めた。</p> <p>行事や課外活動は、学生相互や教員との親睦、レクリエーション、一般市民との交流や奉仕の精神の発揚など、コミュニケーション、人間関係づくりに関わる重要な教育的意義をもつ。今後も、積極的な参加を指導していくこととする。</p> <p>学生が目指す施術者、トレーナー、美容セラピストなどのロールモデルとして、OBは身近な存在である。従って、OBと接する機会の意義は大きい。本年度は新たな試みとして、OBを招いて直接後輩に語ってもらう機会を設けた。学生の評価も高く、今後もこうした機会を設けていきたい。</p> <p>今後はゼミ担当教員によるゼミの自己評価を実施し、さらに質の向上につなげたい。</p>
-------------------------	---	--	---

<p>基本的臨床能力の向上</p>	<p>「実技試験の評価基準」の改訂版作成。実技実習の到達目標、評価の方法等についてより明確にする。 OSCE（客観的臨床能力試験）の実施</p>	<p>本校における「実技試験評価基準」の改訂版を作成し、各実技担当者の共通認識を高めることができた。 9月、3年生対象にOSCE（客観的臨床能力試験）を実施した。 （社）東洋療法学校協会が実施する「はりきゅう実技評価試験」を実施した。</p>	<p>実技実習の主たる目的は、臨床を行う上で患者に対する医療面接、検査、施術の技術、態度を身に付けることにある。実技実習における評価基準を見直し明確化することで、各実習での到達目標がはっきりと示され、実技実習に取り組みやすくなる。また、それが臨床実習のレベルアップにつながると考える。</p>
<p>国家試験合格率の向上</p>	<p>学力テストを実施し、学生の学習状況を把握する。 「国家試験問題集」を配布して問題の傾向を把握させ、自己学習を推進する。 模擬試験を実施するとともに、その結果を踏まえて補習授業を実施する。 試験対策の課外授業を実施する。</p>	<p>本年度の本校国家試験合格率は、現役であん摩マッサージ指圧師試験 100%、はり師試験 94.0%、きゅう師試験 94.0%であった。 既卒者は、あん摩マッサージ指圧師試験 100%、はり師試験 58.3%、きゅう師試験 61.5%であった。</p>	<p>学生の努力と教員のサポートにより、現役ではほぼ全国平均レベルの合格率を達成できたが、はり師およびきゅう師試験で目標の 100%を達成することができなかった。1～2年時からの学習サポートを含め、目標達成に向けて努力する。</p>
<p>2. 学生支援の充実  キャリア支援の充実</p>	<p>進路相談を随時実施し、学生のニーズに応じた進路アドバイスをを行う。 第4回就職ガイダンスを実施し、求人先と学生とのコミュニケーションの場を設ける。 新規求人先の開拓</p>	<p>11月、第4回就職ガイダンスを実施、医療機関等46事業所に参加して頂いた。 本ガイダンスで、職場見学や面接等についてのインフォメーションがなされ、この企画が進路決定のための必要なイベントになっていると思われる。また、1,2年生の参加も昨年より多く、早期から進路に対する関心を持たせる上でも、有意義である。 就職指導の時間を設け、履歴書の書き方、電話応</p>	<p>進路ガイダンス参加事業者からは、好意的な意見が多く、回数を増やしてはどうかなどの意見があった。 求人数が増えたことは幸いだが、需給関係でニーズに応えられない事業所に対するフォローを行い次年度につなげたい。 本年1月の中教審答申のとおり、キャ</p>

<p>中途退学者ゼロ対策</p>	<p>学習面で悩みのある学生については、早期に面談を行い、学習方法の改善等適切な助言指導により、成績の向上を図る。</p> <p>身体的、心理的、社会的な問題を抱えた学生の相談に対応するため学生相談室の充実を図る。</p> <p>欠席が続く学生には早めの声かけをするなどして問題の発見に努め、教員とカウンセラーとが協力をして解決にあたる。</p>	<p>対や挨拶の仕方等について指導を実施した。</p> <p>求人件数は、前年度 165 件に対し、193 件と 18% 増加し求人倍率は 7.3 倍であった。</p> <p>5 月～6 月、クラス担任による個人面談を行い、学生一人ひとりの学習面、生活面、健康面などの状況把握に努めた。</p> <p>学習面での悩みを抱えている学生には、学習環境の改善、学習方法の指導、モチベーションの向上に努めた。</p> <p>心理的問題を抱える学生に対しては、心理カウンセラーが面接を行い、その結果、必要に応じて教員と連携しながら父兄等と連絡を取り解決にあたった。</p>	<p>リア教育をさらに充実していくことが課題である。カリキュラムへの導入などを検討していく。</p> <p>22 年度は、3 名の中途退学があった。主な理由として、「進路変更」、「心理的問題」であった。</p> <p>学生と教員とのコミュニケーションを密にし、問題の早期発見・解決に努め、組織として取り組む。</p> <p>医学的、心理的な問題が考えられる場合は、教員はカウンセリングマインドで対応するとともに、すみやかに学校医、カウンセラーと連携し適切に対処する。</p>
<p>学生生活の支援 (経済面)</p>	<p>地方自治体や銀行などの奨学金、教育ローンなどを調査し紹介する。金融機関と提携する教育ローン制度を HP 等で紹介する。</p> <p>日本学生支援機構奨学金や「国の教育ローン」等の紹介を行う。</p>	<p>本年度日本学生支援機構奨学金の枠、「第一種 2 名」「第二種 5 名」の計 7 名に対し、希望者 10 名であったが、秋に追加採用があり、結果として全員が利用することができた。</p> <p>昨年設けられた校友会奨学金制度が、本年度も希望者があり、交付が決定した。</p>	<p>近年、経済が低迷する中、奨学金を希望する学生は増加傾向にあるが、採用枠の関係から希望者全員に貸与することができないことがある。</p> <p>可能な限り、他の制度、教育ローンなどを受けられるよう配慮する必要がある。</p>
<p>健康管理</p>	<p>毎学年健康診断を実施し、</p>	<p>5 月、健康診断を実施。さらに、定期的に担任面</p>	<p>社会環境のめまぐるしい変化に伴い、</p>

	<p>学生の健康状態を把握するよう努める。 健康診断の結果だけでなく、担任等が常に気を配るよう心掛ける。 身体のみならず、学生の心の状態を把握しケアが行えるよう努める。</p>	<p>談等を行い、健康状態の把握を行い、状況によっては学校医の医療機関等を紹介している。 心のケアについては、毎週、臨床心理士によるカウンセリングの機会を設けている。 その他、セクハラ、アカハラの問題についても相談窓口を設けているが、相談者は無かった。</p>	<p>学生相談の内容も多様化してきている。 教職員で対応することが困難なケースもあり、医療機関、臨床心理士のような専門職等との連携を図りつつ対応していく必要がある。</p>
<p>3 . 地域への貢献</p> <p>附属臨床センターの充実</p>	<p>地域に愛される施設として存在し、地域住民の保健衛生の向上に貢献する。</p>	<p>本年度「患者満足度アンケート」は、78名の患者様から回答を得た。その結果、「サービスの内容」「施術時間」「予約状況」「スタッフの対応」等で、概ね良好なご回答を頂いた。要望として「もう少し治療時間を長くしてほしい」「施術料金をあげないでほしい」「特典をもっと増やしてほしい」等の意見があった。</p> <p>3月の地震の際、スタッフが冷静に対応し、安全に患者様を避難誘導し事なきを得た。</p> <p>「臨床センター便り」No.28～38を発行、患者様とのコミュニケーションに努めた。</p> <p>地域企業からの要請により、社員の疲労回復、作業能率の向上等産業衛生を目的としたマッサージを行うため施術者を派遣した。</p> <p>本年度は、熱海市地域支援事業「介護予防筋力アップ教室」に協力、本校より教員およびATコース受講生を派遣した。</p>	<p>アンケートの結果を踏まえて、患者のニーズの把握、更なるサービスの質向上に努める。</p> <p>治療スタッフの能力の向上に努める。</p> <p>「センター便り」は患者には概ね好評であるが、当センターを知って頂くためより多くの方々に見て頂けるよう検討し、またその他のPRの方法も考え来院者の増加を目指し努力する。</p> <p>産業マッサージについては、好評の為事業所の要望により施術日を週1日から2日に増やした。今後もサービスの向上に努める。</p> <p>介護予防事業については、熱海市より一定の評価を頂き、次年度も継続することが決定した。質の向上に努める。</p>

<p>アスレティックトレーナー(AT)専攻コースの充実</p> <p>卒後教育への取り組み</p>	<p>日本体育協会公認 AT の資格合格率 100%を目指す。 AT 専攻コースの存在を知ってもらうことに努めるとともに、地域スポーツや健康教育の分野における貢献する。</p> <p>臨床センターにおいて、卒前教育で身につけた臨床能力をさらに向上させるための、卒後臨床教育を実施する。</p>	<p>本年度検定試験では、現役で理論合格 1 名、実地合格 1 名、また既卒者では 2 名の実地試験合格者を出すことができた。 地域の高校・中学等の教員研修、県体育協会の要請などによる講師派遣を行った。 プロ選手のサポート、国民体育大会、高校の部活動、スポーツクラブ等へのトレーナー派遣、中学・高校のサッカー大会等におけるトレーナーブース設置など、学生の現場実習を兼ねた地域貢献ができた。</p> <p>「臨床基礎コース」「オイルマッサージコース」を設け、希望者を募り研修を実施した。</p>	<p>教育の向上に努めるとともに、日本体育協会公認 AT 資格の合格率向上を目指し、検定試験対策の充実を図る。 スポーツ現場での活動を継続して行い、選手・コーチとの交流の場を設け、AT 活動とその必要性を認識してもらうよう努める。 地域住民を対象とした講座を継続し、スポーツ現場で活用できる知識・技術を得てもらえるよう努める。 コース OB を対象に卒後研修を企画し、OB とのコミュニケーションを図る。</p> <p>研修修了者のうち希望者を募り、附属施術所にて診療を担当してもらい、実地を通じてさらなるレベルアップを図る。</p>
<p>4. 学生の受入れ</p> <p>学生募集のための広報活動</p>	<p>志願者の増加と広報活動について、業者主催のガイダンスにより高校生への広報活動、進路相談を行っていく。 また、東洋療法についての認識を深めてもらえるような説明を行う。 高校訪問を強化する。</p>	<p>学校 HP をリニューアルし分かりやすい情報発信に努めた。その他、受験雑誌等、オープンキャンパスや入試広告のための新聞、電車広告等への広告掲出等、タイムリーな広報活動を行った。 本年度オープンキャンパスを 5 回開催したが(昨年 4 回)、参加者は前年度より約 4%減少した。 参加者の受験率は 51.7%と昨年とほぼ同じであった。</p>	<p>進学ガイダンスに直結させるために、高校訪問の充実化を図っていく。 特に現在在学者がいる高校を中心に行っていく。 オープンキャンパスの開催回数、内容を見直し、参加者増に努める。また、業界で働く卒業生の話しなども取り入れていく。毎年、同様の内容でなく、参加</p>

<p>定員充足率の向上</p>	<p>オープンキャンパスを充実させ、参加者を増やす。 社会人、中高年者の志願者を発掘する。</p> <p>幅広い年齢層から募集できるよう、高校生推薦入試、社会人入試、学士入試、一般入試という区分で実施する。</p>	<p>5～6月、本校在学生の出身校を中心に高校訪問を実施した。</p> <p>18歳人口が減少しつつある中、鍼灸マッサージ科（昼間部）については、志願倍率（1.65倍）であり定員は充足している。しかし、昨年より20%近く減少しており、とくに鍼灸科（夜間部）については定員を削減したにもかかわらず充足が出来ていない厳しい状況にある。</p>	<p>者と時代のニーズに合わせた企画を常に検討していく。 社会人志願者が増加するよう、広報を充実させていく。</p> <p>モチベーションが高く、かつ医療人として適性の高い志願者を選抜できるよう、医療資格保有者を対象とした募集活動、また、中高年者を対象とした選抜等について実施する。 美容、民間資格で営業している人たち等に対して、募集活動を強化していく。 鍼灸科ならではの特色あるカリキュラムの策定が急務である。 また、鍼灸マッサージ科についても同様に、魅力あるカリキュラムに向けた見直しを行う。</p>
<p>5. 円滑な学校教育の管理・運営</p> <p>法令遵守</p> <p>自己点検・評価</p>	<p>常に法令、学則を遵守しているか確認し、誤認識がないか等の点検を行う。</p> <p>自己点検・評価については、本校の重点目標を達成できるよう具体的な方策を検討し、</p>	<p>行政への定例報告等、期限を厳守して行った。 とくに教員資格、学則に基づいた授業時間数等について確認した。</p> <p>自己点検・評価の結果について、「学校評価実施報告書」として纏め、ホームページ等で公表した。</p>	<p>学校教育法、あはき師養成施設認定規則等、関係法令の確認をしつつ遵守する。</p> <p>学校評価の結果を教職員全員が真摯に受け止め、改善すべき点については改善実施率100%を目指す。</p>

<p>定例会議の開催</p>	<p>着実に実行して成果を挙げるよう取り組む。</p> <p>学則に定めた学校運営会議等の定例会議を中心に、教職員のコミュニケーションを図り、学校運営の円滑化を図る。</p>	<p>定例会議、臨時会議等を開催し、コミュニケーションを図りながら、諸問題の解決に取り組んだ。</p> <p>必要な連絡事項については、校内ネットワークによる円滑化を図った。</p>	<p>学校評価報告書を理事会・評議員会に提出し、評価を受ける。</p> <p>常勤教職員間のコミュニケーションはほぼ良好に保たれたが、非常勤講師等とのコミュニケーション不足が否めない。なるべく face to face のコミュニケーションを図りつつ、業務の円滑化を図る。</p>
<p>危機管理</p>	<p>万が一の危機・危険の発生に備え、その防止対策、発生時に適切に行動できる体制を整える。</p>	<p>3月11日に発生した東日本大震災を機に、危機管理マニュアルや備蓄品に関する自己点検をおこなった。</p>	<p>様々な危機・危険を想定し、定期的なトレーニングを実施することが望ましい。</p> <p>危機管理マニュアルを見直し、備蓄品うち不足している品について整備する。</p>
<p>健全な学校経営の継続</p>	<p>財務の健全化を維持するため、無駄を省き、経費の節減に努める。</p> <p>教職員の健康管理に努める。</p> <p>適切な労務管理に努める。</p>	<p>各部署において、光熱水や消耗品等の無駄を省くなど、経費節減の意識を持つことを徹底した。</p> <p>教職員がオーバーワークになりがちであるため、シフトを遵守するよう努めた。また、休日出勤については、代休をとり休息に努めた。</p> <p>教職員の定期健診を実施、疲労回復や作業能率の向上を目的に附属施術所における鍼灸マッサージ受療を奨励している。</p>	<p>環境保全と経費節減のために、資源の無駄、空調の温度設定など、節約することに継続して努める。</p> <p>教職員が、生きがいをもち、快適に仕事ができる環境づくりに今後も努めていきたい。</p>